

お母さんのためのお役立ちコラム

成長の一瞬をスマホカメラにおさめる

いつでも、どこでも、手軽に撮影ができるスマートフォン。常に手に届くところであって、決定的瞬間を逃さずに撮れることも“スマホカメラ”のメリットです。便利な撮影機能を使いこなせば、いつもの写真が格段にステキになります。

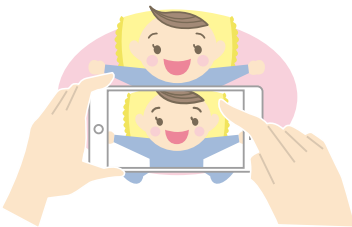
松井なおみさん

スタジオZui主宰。広告から雑誌、ホームページ、イベントなど幅広く撮影するフォトグラファー。女性ならではの感性を生かし、美容関係や自然な表情を引き出す人物撮影も得意とする。大の子も好きで7歳の甥っ子にメロメロの毎日。



1歳を迎える頃の赤ちゃんは、ハイハイをしたり、つかまり立ちをしたり、なかにはしっかりと立って歩ける子もいます。毎日できることが増えていくので、その“瞬間”を逃さず写真に残しておきたいものです。そんな時に便利なのが、家の中でも外出時にも素早く手に取れ、カメラ機能のセッティングもあっという間なスマートフォン。最近の“スマホカメラ”は性能も向上し、アングルを工夫したり、機能を使いこなすことで、デジタルカメラに負けず劣らずのステキな写真が撮れます。

“スマホカメラ”で撮影をする時には、まずレンズ部分の汚れを確認しましょう。手垢などでレンズが汚れていると、被写体がぼやけたり、写真全体が薄暗くなる原因になってしまうため、きれいに拭き取っておきます。撮影時に気を付けておきたいのは、できるだけズーム機能は使わないこと。“スマホカメラ”は画面を指で広げることでズームがで



きますが、どうしても画質が粗くなってしまいます。それを防ぐためにも、自分から被写体に近寄って撮影するようにします。また、薄暗い場所でのフラッシュ機能を利用した撮影は、明暗のコントラストが大きくなり、不自然な色調になるためおすすめできません。フラッシュの光で赤ちゃんを驚かせないためにも、できればフラッシュ機能はオフにしておきたいものです。

屋外に比べ光量の少ない屋内での撮影では、窓の近くなど、できるだけ自然光が入り込む場所を選ぶことが大切です。どうしても明るさが足りなかったり、逆光などの条件で撮影画像が暗くなってしまう場合は、ぜひHDRモードを活用してください。このHDRモードは被写体の明暗差を感知し、肉眼に近い画像に自動合成する機能で、いわゆる「白飛び」を防ぎ、写真全体を自然な明るさに調整してくれます。ほとんどの“スマホカメラ”に内蔵されていますので、カメラ機能を起動した後に、HDRモードを「オン」または「自動」に設定して撮影してみましょう。自然な明るさの素敵な写真が撮影できるはずです。